

(10) オオタカとの共生について

想定課題

那須地域の中心部である那須野ヶ原は、オオタカの生息地であることから、新都市の整備においてオオタカとの共生を考慮すべきではないか。

対応方向

オオタカは地域の農林業の営みの中で育林・維持されてきた里山の森林等を生活基盤としており、その生態系（食物連鎖）の頂点に位置しているため、身近にある良好な自然を指標するといわれています。つまり、オオタカが生息している地域は、良好な自然に恵まれている地域であると言えます。

また、オオタカは環境の変化等により全国的に個体数が減少しており、「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」に基づく国内希少野生動植物種に指定され、環境省の「レッドリスト」では、絶滅の危険が増大している種である「絶滅危惧 類」として掲載されています。

那須野ヶ原は、平地林と農耕地が入り組んだパッチワーク状の植生状況であり、林縁部に生息する中小型の鳥類や小型の哺乳類等を採餌するオオタカにとって、生息に適した環境であると考えられます。

国会等の移転先となる新都市は、環境に配慮し、環境と共生する先導的な都市として、世界の範となることが必要と考えられます。したがって、那須野ヶ原においては、自然環境との共生の観点から、良好な自然環境に生息するオオタカと共生する新都市を目指すことが大切です。

そのためには、新都市の計画段階から、オオタカの行動圏等を調査・研究するなど、新都市の建設段階に応じてオオタカとの共生に向けた検討をしていくことが求められると考えます。

また、新都市が整備された後においても、オオタカ生息地の森林施業や農地の維持管理等、オオタカの生息に適した平地林や農耕地を保持する方策を検討していく必要があると考えます。